

番号連携方式検討表・データ送受信方式検討表へのコメント

2011年6月6日

(独) 情報処理推進機構 情報セキュリティ分析ラボラトリー
ラボラトリー長 小松文子

システム設計時に複数の案を比較検討・議論し、最終案を練り上げることは重要と考えます。以下、資料へのコメントを挙げます。

1. 評価軸について

以下の評価軸を追加することを検討してはいかがでしょうか。

(1) 制度との関連

例えば、案1では、強い罰則を伴う制度や第三者機関によって、セキュリティ侵害・プライバシー懸念への対応をすべきである。など、制度との関連を記載すると、技術対応とのバランスがわかりやすい。

(2) 故障・災害時の対応

稼働の安定性・運用性に加え、故障や、災害などの障害時の対応についても、追加するべきと考えます。たとえば、リンクコードの生成方式ですが、可逆暗号方式、テーブル変換方式について、二重化システムやバックアップ方式が考えられますが、それぞれの方式によって実施すべき内容が異なります。

(3) 監査証跡への対応（データ送受信方式検討表）

アクセス記録について、記述がないので、追加すべきと考えます。監査証跡は、第三者が確認するものですが、当事者が改ざん（変更）することを防ぐ必要があります。

2. 社会保障分野を想定したと見られる案4, 5について

社会保障分野は、「番号」が共通ですが、情報連携時の番号の役割が不明瞭と考えます。情報連携基盤と類似の二重の連携基盤が構築されるのであれば、それは、システム投資として無駄ではないのでしょうか。情報連携基盤にて、社会保障分野の処理を代わって実施するという案は考えられないのか。その場合、番号の取り扱いを明らかにすべきと考えます。

以上